

社寺名 伊佐爾波神社 (松山市桜谷町173)

奉納者 やまさきとみたるう まさひろ
山崎富太郎 (昌廣)

奉納年 嘉永3年 (1850年)

解説 《愛媛県指定有形民俗文化財》

富太郎は山崎喜右衛門の妻の弟である。山崎喜右衛門は、若くして御細工組の御馬具師を引退したので、富太郎を養子として迎え山崎家を継がせた。名前を、萬太郎に改名する。

喜右衛門が江戸から帰郷後、彼の下で和算を学んだと思われる。喜右衛門は、藩校の明教館数学教授所の初代主任教授に就任した時、富太郎は彼の助教として活躍した。

額は、養父山崎喜右衛門の算額と並んで大きく、額の四隅に豪華な飾り金具が付けられている。

山崎親子の額を中心に門下生8人が奉納しているのを見ると、「一門の繁栄を祈願」して奉納したものと思われる。

嘉永三戌年
仲夏吉祥日

關

流

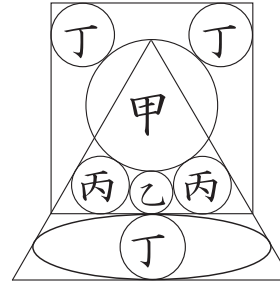
山崎富太郎

昌廣

印

山崎昌龍男

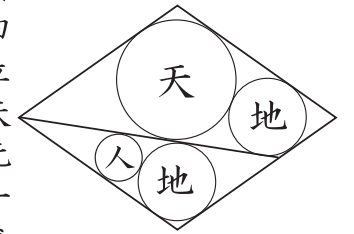
術曰置一十二箇平方開之加五分名極加六個三分七釐五毫以一箇五分除之平方開之以減極餘平方開之乘側円長徑得三角面合問



今有如圖交三角與平方其交罅插側円其尖設甲圓其交罅容乙圓及丙圓二箇丁圓三箇只云甲圓長徑若干問得三角面術如何

答曰 如左術

術曰立天元一爲人圓徑加三箇乘人圓徑與四箇相消得開方式立方開之得商自乘之乘天圓徑得人圓徑合問



今有如圖菱內設斜其下敷地人二圓其上載天地二圓各充內無動只云天圓徑二十三寸八分四釐九毫八絲問人圓徑如何

答曰 人圓徑 零一十寸有零奇

問題文

(右) 図のように、菱形を線分で2つに分け、その下側と上側に内接する2個の円がある。天円の直径の長さが24寸8分4厘9毛8糸のとき、人円の直径の長さを求めよ。

(左) 図のように、正方形と正三角形が交わってできる図形内に、楕円(側円)が1個、円が6個ある。甲円の直径の長さが与えられたとき、正三角形の一辺の長さを求めよ。